資料１－２

岩手県東日本大震災津波復興委員会
総合企画専門委員会による現地調査の概要について

１　実施日／訪問先

平成27年12月16日（水）／宮古市

２　調査者（総合企画専門委員会委員４名）

齋藤　徳美　　委員長　　（岩手大学名誉教授）
緒方　武比古　委員　　（北里大学副学長）
平山　健一　　委員　　（（公財）岩手県国際交流協会理事長）
若林　治男　　委員　　（（公財）岩手県下水道公社理事長）
※復興局から中村局長ほか各課総括課長等８名が随行

３　テーマ

『被災地におけるまちづくりとコミュニティ』

４　調査内容及び参集者等

⑴　一般国道106号宮古西道路整備現場の視察
［場　所］宮古市田鎖付近

⑵　三陸鉄道㈱との意見交換
［場　所］㈱岩手銀行宮古中央支店会議室
［参集者］望月社長、坂下事業本部長、村上総務部長

⑶　応急仮設住宅及び災害公営住宅の住民等との意見交換
［場　所］和見町災害公営住宅集会場
［参集者］社会福祉協議会職員、仮設住宅自治会長及び災害公営住宅世話人

⑷　宮古エフエム放送㈱との意見交換
［場　所］宮古合庁1階第２会議室Ａ
［参集者］坂本放送局長、赤沼制作担当、小金渕総務担当

５　各調査先参集者からの主な意見

⑴　三陸鉄道㈱社長等

- **沿線人口の減少**に加えて、**公共機関（病院・高校）の郊外移転**が利用者の減少に大きな影響を与えている。
- 首都圏のツアー客は、今年は北陸新幹線に、来年は北海道新幹線に流れる見込みであり、三陸は苦戦を強いられると予想している。
- 教育・研修旅行は、内陸部との広域的な取組を進めており、また「あまちゃん」効果もあり、**台湾からの観光客の乗車**が多い。
- ＪＲ山田線の移管に向けて、**鉄道を守る意識を山田町と大槌町でも醸成**していく必要がある。
- 外国人観光客の受け入れ体制が県内、**特に沿岸部は弱く感じる**。周辺案内図だけでも**英語表記**をしていただきたい。

裏面に続く→

⑵ 応急仮設住宅及び災害公営住宅の住民等

➢**集会所を住民が気軽に使えるように**していただき、コミュニティ活動をできるようにしてほしい（災害公営住宅でのコミュニティがうまくいかないので、入居していた応急仮設住宅の集会所に行ってしまう）。

➢応急仮設住宅では、様々なイベントがあり、集会所も容易に使用することができたため、災害公営住宅に入居してからの差が大きい。

➢住宅再建したいが、市からの土地区画整理事業の完了が遅れるとの説明があり、**どこに再建するか迷っている**。

➢災害公営住宅の集会所に来ていただける入居者はコミュニティづくりに前向きだが、**顔を出していただけない入居者**が心配である。

➢災害公営住宅へ入居した人は入居した人なりに悩み（孤独）があり、応急仮設住宅に残っている人は残っている人なりに早く家を建てたいと悩んでいる。

⑶ 宮古エフエム放送㈱放送局長等

➢様々なメディアがある中で、**地域のコミュニティをつないでいる**と自負している。

➢市民（被災者）の皆さんがどういう状況にあるかを伝えることを大切に放送している。

➢田老保育所で震災時に一緒に避難した子どもたちが今年卒園すると取材して、時の流れを感じた。こういう情報をラジオを通じて伝えていきたい。

➢災害公営住宅のコミュニティづくりについて、ラジオの情報を聞いて、**集会所に行ってみようと思ってもらえれば、運営側としては嬉しく**、そういうラジオ局になっていきたい。

➢復興が終わったと言う人、まだまだ復興は終わっていないと言う人もいる。いろいろな方たちの状況を放送していきたい。

６　委員からの主な発言

➢内陸と沿岸が鉄路でつながっているということが大きい。土砂崩れにより運休している山田線が岩泉線と同じようにならないように、県もＪＲに対して求めていってほしい。

➢鉄道が地域を結ぶ役割を担い、利用を増やすには、三陸鉄道を**下車した後の周辺アクセスの利便性**を上げる必要がある。

➢自動車で移動ができない高校生や高齢者の方々が利用できるように、三陸鉄道への**直接的な補助金のような形ではなく、同じ予算を医療機関までのシャトルバスの運行、高校の授業料を安くするなどの施策に使い、利用を促進する仕組み**を県や市町村は検討すべき。

➢災害公営住宅に入居すれば、再建が完了ということではなく、**入居してからも支援は必要**である。

➢災害公営住宅でのつながりを構築していくために、ハード面の整備だけではなく、**ソフト面をしっかりサポート**していただきたい。

➢メディアの持つ力があると感じた。**コミュニティＦＭの経営が持続できるように**しなければならない。

○三陸鉄道㈱との意見交換

〇応急仮設住宅及び
災害公営住宅の住民等との意見交換